

12階東病棟 | リハビリテーション科

メンタルコミットロボット パロ
愛称：はなちゃん



病棟の特徴

2007年に開設されたリハビリテーション科病棟（障がい者施設等一般病棟）です。

脊髄損傷、神経難病、重度の肢体不自由などを有する方が主に入院されています。



病棟のご案内

病床数：38床

（個室 4床、総室 33床、観察室 1床）

車いす用トイレ：5か所

介助浴室

集団療法室

病棟のご案内



機能訓練室

病院の2階にも大きな訓練室がありますが、12階東病棟の中にも、訓練室が設置されています。

介助浴室

寝たままでも入浴できるストレッチャーがあり、リフトも付いている浴室です。
呼吸器装着中の患者さんも週1回は入浴できます。



病棟目標

1

急性期病院におけるリハビリテーション科としての機能を発揮する。

2

障がい者病棟の役割を果たすとともに、政策医療に貢献し、高度なリハビリテーションに取り組む。

3

元気な職場づくりを目指す。

リハビリテーション科看護

- 在宅・社会復帰を目指し、リハビリテーションを支援しています。
- 日常生活援助を始め、家族様へのケアの指導や在宅サービスの調整などを行います。
- 主な疾患
 - ・ 頸髄損傷・脊髄損傷
 - ・ 高次脳機能障害
 - ・ 骨折などの外傷
- 医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー(MSW)がチームを組んで、リハビリテーションを進めていきます。
- 頸髄損傷者連絡会の協力を得て、入院中の脊髄損傷患者さんへのピアサポートの集いを開催しています。



脳神経内科看護



- 神経難病患者様の診断、治療やレスパイト入院を受け入れています。
- 主な疾患
 - ・パーキンソン病、パーキンソン病関連疾患
 - ・ALS（筋萎縮性側索硬化症）
 - ・ハンチントン病などの希少神経難病
- 入院中は、日常生活援助や内服管理、機能低下予防のためリハビリを行います。
- 医療的処置やケアが必要になることも多く、本人と家族様を含め今後の方向性を話し合います。また、在宅支援者とケアの調整や情報提供を行い、在宅生活を支援します。
- ALS 患者さんのコミュニケーション障害に対して多職種チームで回診し、病状の進行や身体状況に応じた支援を行っています。



リハビリカンファレンス

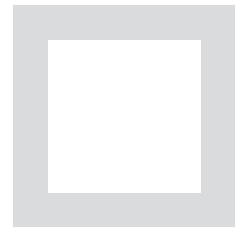
主治医、受け持ち看護師、担当セラピストが集まって、月に1回、患者さんの状態の情報共有や、1か月後の目標を話し合っています。

看護カンファレンス

スキンケア、MSWを交えた退院支援、摂食嚥下療法、看護記録、看護倫理、医療安全、感染対策などテーマを決めて、毎日お昼の時間にカンファレンスを行っています。

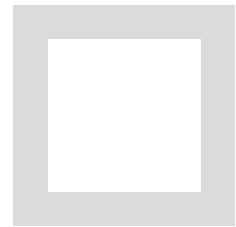


職場内における教育



新人教育

- ・新人看護師はプリセプターと病棟全体の支援により1年間、看護技術と知識と一緒に学んでいきます。
- ・定期的に振り返りの機会をもち、情報共有を行い育成支援を行っています。
- ・感染対策、身体抑制など各委員会の担当者からも知識の提供を行っています。



職場教育

- ・医師による疾患の病態、治療方法について勉強会を実施しています。
- ・人工呼吸器などの医療機器について、臨床工学技士や医療機器メーカーによる勉強会を開催しています。
- ・看護師とセラピストとの交流の場をもち、BLSやICLSなど急変時の対応の訓練など多職種で取り組んでいます。